

第六回 東京農工大大会 上位者ルート (MEL / WEL)



大会当日、会場にて

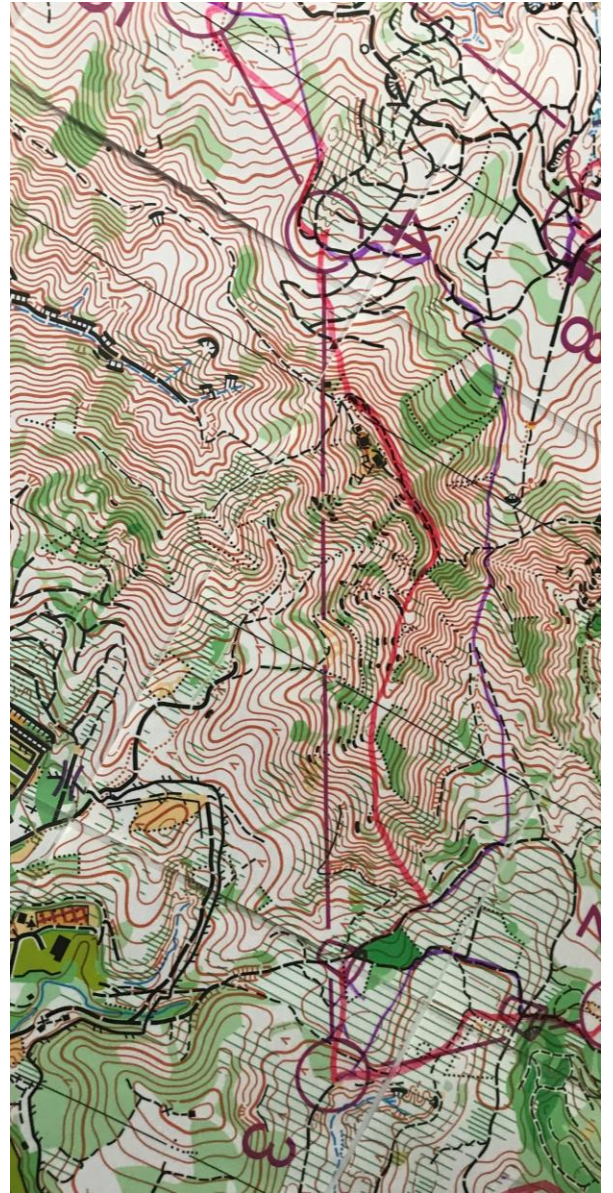
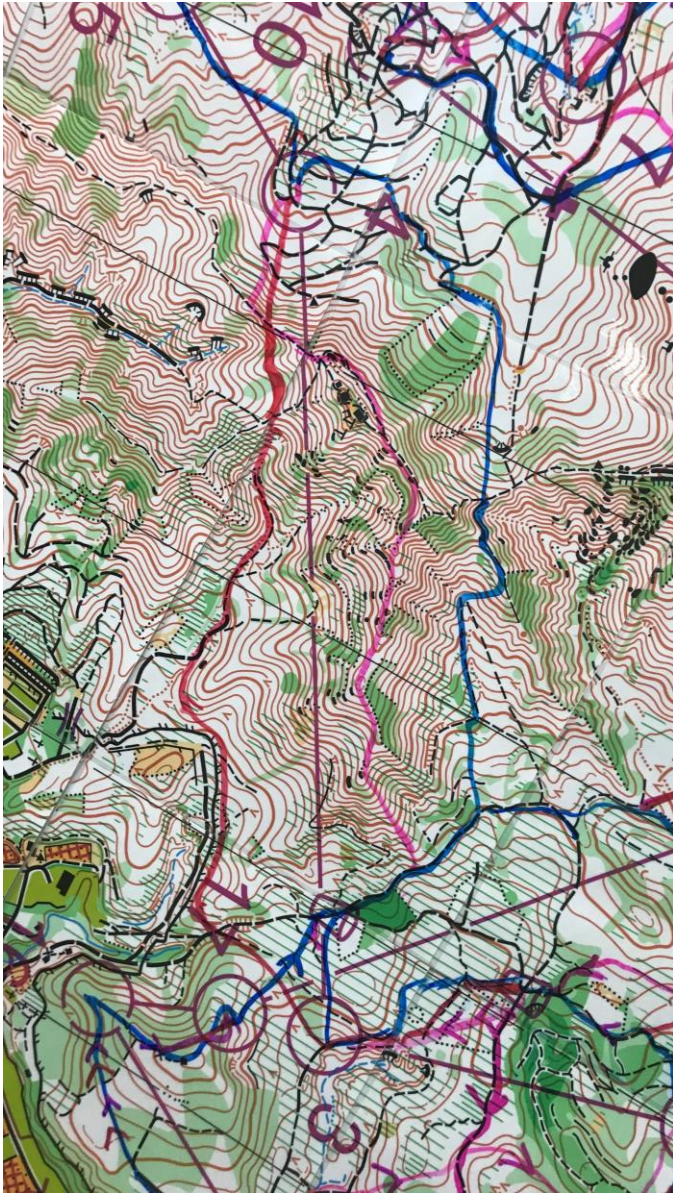
MEL 上位者ルート



WEL 上位者ルート



MEL 3-4 / WEL 3-4

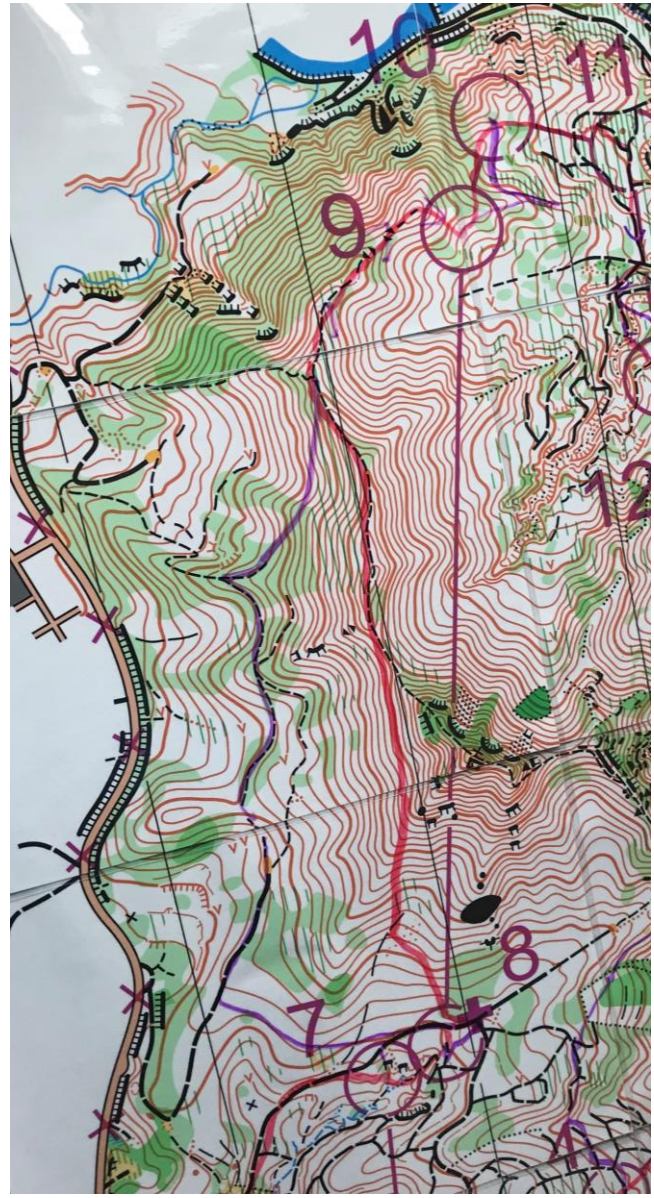


・ 上位者のルートが分かれたという点では良いロングレグだったと言えるだろうか。

・ 寺垣内選手の直進尾根辿りルートが2位ラップだったことは、プランナーの想定外だった。宮本選手もこのルートを選択しており、初見では見えやすいルートだったようだ。登高が大きくかさむが、ご本人曰く「この尾根は走りやすかった」そうだ。走行可能度が高くナビゲーション負荷が低いいため、実はバランスのとれたルートなのかもしれない。

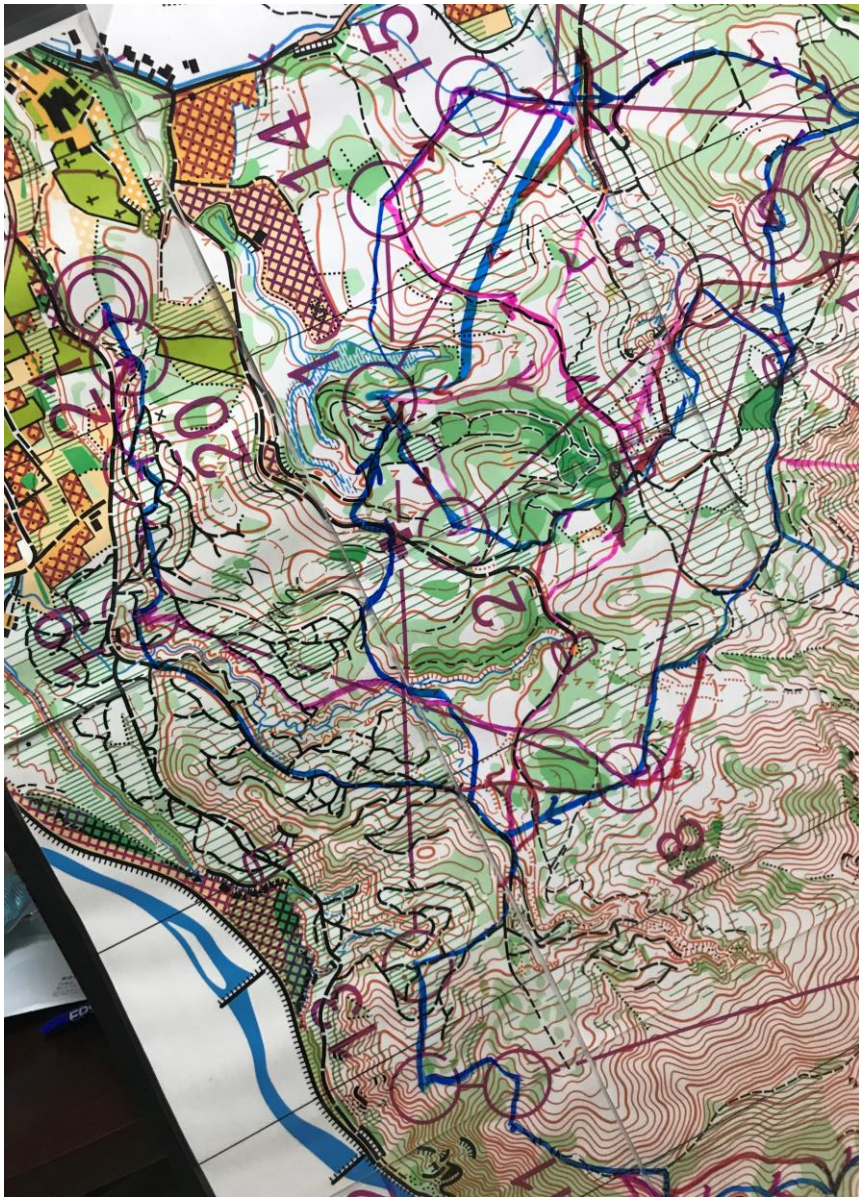
・ それでも、男女ともに1位ラップは右ルートであった。

MEL 10-11 / WEL 8-9 (救護所から合流)



- ・左ルートが好んで選択されていた。
- ・左ルートでも、道に乗るまでのルートや尾根線に乗るまでのルートで細かな差が出ていた。
- ・レッグ単体で見ると時間に大差がないとしても、登高を格段に抑えられる左ルートを選択できた選手が体力的余裕度により全体で上位に食い込みやすかったと言えるのだろうか。他の上位者のルートが気になるところだ。

MEL 13-14



- ・ 想定通り、上位者の中では右ルートがベストルートだった。
- ・ 競技後のインタビューでは、終盤の集中力の欠如を考慮して左ルート（前掲のコース解説の青ルート）を選択し、安全に走っていた選手も見られた。
- ・ ちなみに、18→19（WELでは少し右の有利な似たレッグ有り）でも上位者のルートが分かれて興味深い。MELでは寺垣内選手が真ん中を、WELでは宮本選手が右を選択しているが、全体として左が好まれる傾向があるだろうか。上位者の中では「C藪の獣道や明らかな登高>切り立った土崖>距離の加算や楽な川渡り」の順に敬遠されるのかもしれない。もちろんレッグによるだろうが、走りやすいルートが遅くないことに間違いはないだろう。

おわりに

大会当日には、表彰スペースの隣に大地図を掲載しました。そこでは、最上位クラスを走ったかどうかにかかわらず、多くの参加者が地図を眺めていて、大変良い光景でした。

T選手より、地図（の画質）がきれいだという声を伺えたため、今後同じような会場イベントに携わる機会があれば今回の「A型を活かした」大地図作成ノウハウを活用したいと思います。

令和元年 10月7日

農工大OLC39期・櫛会
早川徹彦